

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)
 杉並区立和泉中学校 教科名: 国語

指導技術		観点別の授業改善の視点				
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	話す・聞く能力を向上させるための手だて	書く能力を向上させるための手だて	読む能力を向上させるための手だて	言語についての知識・理解・技能を向上させるための手だて
導入	<p>【授業規律】 チャイムが鳴る前に学習の準備をして待つ。忘れ物があれば事前に申し出て、授業の妨げにならないようにする。</p> <p>【発問】 本時の目標を明らかにする。なるべく既習の学習から見通しをもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>【ノート指導】 日付、単元名、目標を書く。また、メモ欄を作り、板書だけではなく必要なことを書き留められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に関連した発問から、日常生活や社会生活と自分を照らし合わせて、学習目標をとらえられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くときには、まず目を合わせて話を聞く姿勢をとるようにする。必要に応じて、メモをとりながら聞くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目的意識や見通しをもって書くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や叙述に基づいて、大切なところを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新し語句については、その意味や活用を押さえる。例文作りなどを通して、把握できるようにする。
展開	<p>【授業規律】 自分の思いや考えを進んで他者に伝えられるようにする。</p> <p>【発問】 目標や主題に沿った自分の考えをもてるようにする。</p> <p>【指導技術】 目標や主題に沿った言語活動を取り入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しさだけを問わず、自分の思いや考えを表現するよさを味わわせる。 ・他者の意見を聞くよさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもって話ができるように話題を工夫する。 ・少人数から班単位までグループ編成を工夫し、互いの考えを交流させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの言葉からふさわしい言葉を使うことができるようにする。 ・推敲を重ねることで、自分の気持ちや考えが相手によりよく伝わることを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読みの交流をはかることにより、他者から学んだことを自分の考えに生かし、読みを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎となる知識は、学習ワークやプリントを用いて、繰り返し学習し定着するようにする。
まとめ	<p>【発問】 目標に対しての振り返りを行い、次時の学習につながるようにする。</p> <p>【ノート指導等】 ノートや学習シートに振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で理解したこと、疑問などを振り返るようにする。今後の学習や日常生活で取り組みたい課題がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の交流を振り返る。良い点は生かし、課題は解決できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会の中でどのように活用されているか想起し、生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと他者の考えを比べ、感想をもちながら読むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ワークや小テスト、ドリルなど家庭学習でのやり方を知って、自分で取り組めるようにする。

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校 教科名:社会

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断・表現能力向上のための手だて	資料活用能力を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	1学期までの状況と問題点、今後に向けて どの学年も忘れ物をする生徒がおり、彼らは授業に引き込む導入段階からつまづいてしまい、授業に積極的に参加できない様子が見られる。道具を忘れないよう、指導を繰り返しながら授業に参加させたい。しかし全体には、授業に対して前向きな姿勢で取り組んでおり、授業の展開にのせていくことができている。	前回の授業内容の確認をする方法として、「本時のねらい」を生徒に明示することや、最後に説明した事項を簡単にもう一度説明することで記憶がよみがえり、次の内容に入りやすくなる。	導入としては、関心意欲が主たるポイントと考える。	導入としては、関心意欲が主たるポイントと考える。	導入としては、関心意欲が主たるポイントと考える。
展開	1学期までの状況と問題点、今後に向けて 2,3年生は昨年度と比べてノートを書きとる力が向上し、情報量が豊富なノートを多くの生徒が作り上げている。また資料からわかることを意見として書いたり述べたりできる生徒が増えてきた。全体にはよいのだが、まだノートを注意しないととれない生徒や、集中力にかけているべき資料に正対できないために力がつかない生徒もいる。声をかけ続けて授業の中に取り込んでいきたい。1年生は知的好奇心が強く、積極的に発言したり意見を述べたりできるので、活気のある授業が展開されている。	難しい説明をする場面で話についてこられず、意欲が減退してしまふことがあるので、平易に、また例え話を使いながら、生徒の目の表情に注意しながら授業を進めていくことが重要である。	思考判断の基本には、当然社会科としての基本的な知識がなければ空論に終わってしまう。多角的多面的な知識を伝えたいので、自分の考えをまとめることや他の人にわかりやすく伝えることに力を入れる。	資料活用能力をつけるためにも、教科書や資料集にある地図や統計、図表などからわかることを生徒各自に考察させていく指導を、これからも積極的にとりいれて行っていく。	ノートをたくさん書きとっていくことでノートの情報量が多くなり、それが定期考査の学習につながっていく。そのためにも特に重要な話は繰り返したり、ひときわ大きな声で話すなど工夫を続けていく。
まとめ	授業の終わりにもう一度、本時の学習事項をおさらいし、確認することで、あいまいな理解だったことを自覚して補ったり、知識の定着と確認ができる。授業の展開上、まとめの時間がうまくとれないこともあるが、極力時間を生み出して取り組んでいきたい。	関心意欲の根本には、もっと知りたいという知的好奇心の強さがある。上記のような基礎的な力の定着とともに、社会科に力のある生徒が満足できるように高度な知識情報にもどんどん触れていくことが大切である。	いま「考える力」が重視されている。社会科としてもこの観点は最重要点であると考え。基本的な知識理解に力を入れながら進めながらも、他の人の意見を評価し、自分の視野を広げて考察することを目指す。	長い休み中に必ずレポートを作成させている。生徒各自が自分のペースで、資料を収集して構成を決め、わかりやすく表現に工夫をしながらまとめあげていく。この経験はとても大きいので、今後も継続していく。	社会科はどうしても必死に暗記しなければならないことが多い。自分が作ったノートの情報をもとに、テスト前に十分時間を割いてしっかり覚える習慣を早く生徒個々に定着させていきたい。

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)
杉並区立和泉中学校 教科名: 数学

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	見方や考え方を向上させるための手だて	表現・処理を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p>【授業規律】チャイム着席、始業のあいさつ、チャイム授業、を心がける。授業の用意の確認をし、忘れた生徒への指示を行う。</p> <p>【動機付け】前回の授業の復習(問題を板書)を行い、本時の目標を明確にし、授業につなげていく。</p> <p>【板書】わかりやすく丁寧に板書する。字の大きさにも配慮したり、図形やグラフも色分けしたりしながらわかりやすさを心がける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な復習内容を発問し、数学への関心・意欲・態度を高めていく。 ・個々の学力にあった発問を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な例題をわかりやすく丁寧に指導する。 ・同じような例題をノートや板書を見ながら取り組ませる。 ・問題を提示し求め方を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な例題をわかりやすく丁寧に指導する。 ・理解しているかどうか(表現・処理の仕方)の確認をする。例題の段階での確認が重要となるので机間指導等でも確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある重要な語句も板書し、写させ覚えるよう指導する。言葉の意味の大切さを理解させる。 ・基本的な解き方、求め方をくり返し練習させる。
展開	<p>【授業規律】板書をしっかり写させることを意識しながら授業を進める。また、説明しているときはよく話を聞かせること、間違いを気にせず発言させること、考えさせることを意識する。</p> <p>【教材提示】プリントや問題集を使用しながらの演習も行う。時間の許す限り、演習を取り入れる。</p> <p>【ノート指導】ノートは大きく、また、見やすく書くよう指導する。板書を写すだけでなく、教師の話の中で大切と思う事柄もノートするよう指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい板書、説明を心がける。 ・生徒の意欲を評価し、間違えても恥ずかしくない雰囲気を作る。 ・何を学習しているのかを常に明確にし、活動に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題を取り組ませる。板書では正解を示し、自分の解き方との確認をさせる。さらに問題演習をする。 ・考えた問題の求め方を発表させる。他生徒はその発表に対して質問や意見を交換させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題だけではなくプリント問題や問題集を利用して取り組ませ、発表させる。 ・わからないときには積極的に質問させる。 ・質問があった場合には個別に指導する。その問題によっては、全体にも指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の問題だけではなくプリント問題や問題集を利用して取り組ませる。 ・わからないときには積極的に質問させる。 ・質問があった場合には個別に指導する。その問題によっては、全体にも指導する。
まとめ	<p>【発問】復習内容の発問を行い、発表の仕方も指導しながらしっかり確認する。また、本時における覚えなければならない事項を確認する。</p> <p>【授業構成】本時の課題を確認し、次時に向けての家庭学習を指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を振り返ることから、「こんな計算問題ができた、問題の解き方がわかった」ということを実感させ、次時の授業への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を行う。答えだけ合うのではなく途中過程の大切さを確認する。 ・自分以外の考え方を確認し、ノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を行う。答えだけ合うのではなく途中過程の大切さを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書問題を確実に解けるよう(解決できるよう)意識させる。 ・家庭学習の大切さを理解させ、習慣化させる。

平成22年度授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校教科名:理科

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	表現の能力を向上させるための手だて	理解の能力を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p>【授業規律】チャイム着席を心がける。授業道具を点検し、ノート等は代わりの物を用意させる。教科書については貸出しも行う。</p> <p>【動機付け】最新のニュースに気を配り発信して、意外なところにも科学が関係していることを気付かせ、本時の授業につなげていく。さらに前回の授業の復習を行い、前回からのつながりをはっきりさせていく。</p>	<p>・最新のニュースに科学が関係しているか。また、どんな点で関係しているのかなど身近な生活の中で関心を高める。</p>	<p>・前回の授業で学習したことを復習し、基本的な用語の意味を的確にとらえさせる。</p>	<p>・新聞等から科学的な記事を見つけ、発表させるなど、身近なところの科学に気付かせる。</p>	<p>科学的な用語の小テストを実施し、理解・定着を図る。</p>
展開	<p>【授業規律】授業に集中させることは当然であるが、この事象がどうして起こったのか。また、このあとどう変化していくのかなど、自分の考えをまとめさせる。その考えは違っていることが多々出てくるが、自分のこれまでの経験のなかから考えまとめたことを評価していく。</p> <p>【ノート指導】板書事項を精選し、要点だけできるだけ少ない板書にして、自分の考え(仮説)を書かせるようにする。また、それに対する自己評価をくわえさせていく。</p>	<p>・各自の考えの独自性を評価する。</p>	<p>・実験については、レポートを作成させる。実験の方法のところで、実験図の記入、実験予想、考察などの記入させる。</p>	<p>・单元ごとのワークシートを記入させることや問題演習の反復練習を行う。</p>	<p>・放課後の「学習教室」や定期テスト前の「弱点克服教室」の充実を図る。</p>
まとめ	<p>【授業構成】本時の授業を板書(ノート)で確認し、次の授業に向けて予告と家庭学習の指示をする。</p>	<p>・本時の授業内容を振り返らせることにより、新しい内容を再度確認させ、理解した喜びを感じさせる。</p>	<p>・教科書の文章で科学的な用語の意味の再確認をさせる。</p>	<p>・科学的な用語の意味を自分で説明できるか、言葉に発してみる。</p>	<p>・実験レポートや問題演習を何度も確認しながら、本時の学習内容を位置づける。</p>

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校 教科名 音楽

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	感受や表現の工夫を向上させるための手だて	表現の技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p><授業規律> :チャイム着席の徹底・持ち物の点検・しっかりとあいさつ。 <動機付け> :柔軟・呼吸・発声練習を時間を短縮し、効果の上がるものを組み合わせる。 発声練習の段階で個別に姿勢・口の開きなどを見ていく。 板書:姿勢・発声で必要な事を板書しておく。</p>	<p>声が出やすくなるアドヴァイスをする。気持ちよく声が出せるようにする。</p>	<p>技術的に向上するよう、姿勢・口の開き・呼吸の流れ等基本を徹底させる。</p>	<p>教師かパートリーダーなどの声を聞かせ、模倣させる。</p>	<p>全員が一人で声を出さず、人の発声を聞く事で、良い点・課題点を知り自分の演奏に生かしていく。</p>
展開	<p><授業規律> 合唱では、授業外でもパートリーダー・指揮・伴奏の指導を行いリーダーシップを取らせる。 練習中に全員が発言するように指導する。授業チェックシートに発言回数書き込みをさせる。 パート練習では、パートリーダーにリーダーシップを取らせる。</p>	<p>手拍子等でリズムカルにどんどん練習を進めさせる。 パート練習中にリーダー以外も発言をさせる。</p>	<p>記号など楽譜内の事に注目させる。 パート内で話し合わせる。 短いフレーズを一人ずつ演奏させる。 他パートや他人の演奏の感想を述べる。</p>	<p>反復練習を通し基本の理解を徹底させる。</p>	<p>自分のパートの楽譜にマークをつけさせる。 音楽記号をチェックさせ、意味を理解し演奏に生かす。 歌詞を朗読・発音し、意味を感じて表現する。</p>
まとめ	<p>指揮伴奏を前に出させ、合唱する。 合わせ練習でも、指揮者等のリーダーに発言をさせる。</p>	<p>今日の授業をふり返り、出来るようになった事と、次の時間の課題を確認する事で次の時間へのやる気を持たせる。</p>	<p>姿勢・呼吸・発音・響き等基本が出来ているかを何度も繰り返し確認する。 ハーモニーが出来ているかを確認する。美しいハーモニーを体感させる指導をする。</p>	<p>必要な事が意識し続けられるようにリーダーが繰り返し確認するよう指導し、教師がそれをフォローする。</p>	<p>発声や表現上の課題点から、授業以外で出来るトレーニングなどを教え、家でも練習する事を促す。</p>

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校 教科名：美術科

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	発想や構想の能力を向上させるための手だて	創造的な技能を向上させるための手だて	鑑賞の能力を向上させるための手だて
導入	<p>〈授業規律〉チャイム着席、チャイムでの授業を心がける。授業の持ち物の確認を行い、忘れた生徒に指導後、代わりの物を準備させる。授業開始の挨拶をきちんと行わせる〈動機付け〉授業の開始時に本時の内容、目標を伝える。〈板書〉制作活動の流れを示し、制作がスムーズに行えるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや発想を創造させることで興味・関心を持たせる。 ・身近なものにテーマを決めることで関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものからテーマを考えることで、関心を持たせ、意欲的に発想や構想をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや発想をもとに創意工夫して、それをどのように表現するかを考えさせる。 ・基礎基本となるデッサン学習をする機会を数多く与えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術作品などのよさや美しさを感じ取り、味わう活動を通して、鑑賞に関する指導をしていく。
展開	<p>〈授業規律〉集中して制作活動をさせる。質問や相談がある場合は、教卓の所に来るか、または机間指導のときにする。</p> <p>〈個別指導〉机間巡視をする中で、進行状況を見ながら、アドバイスなどをしながらよりスムーズな制作活動が行えるように個別指導を展開していく。</p> <p>〈発表〉制作活動の中で、進行状況の早い生徒作品や参考になりそうな作品をいくつか全体に示し、自分の制作活動のヒントにさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや発想を大事にして、生徒の意欲を高める。 ・意欲的な制作活動の雰囲気大切に、集中して取り組ませる。 ・生徒の作品を発表することで、周囲の生徒らにより意識・関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動の中で、意欲的な取り組みにするための発想や構想について、助言をし、スムーズに展開できるように指導していく。 ・生徒の作品を発表させることで、様々な考えや方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に制作活動を行うために、材料や用具の生かし方などを考えさせ、工夫した表現ができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や西洋の美術作品などを鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取り、美術文化に対する関心を高められるように指導していく。
まとめ	<p>〈授業のまとめ〉本時の制作活動を確認し、振り返りながら全体に助言をする。また次の授業に向けての予告をし、持ち物などを指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業についての振り返りや助言などを伝え、次の授業への意欲を持たせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想を形に表せるように個別指導を通して、その内容にあった指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の順序などを考えながら、見通しを持って表現できるように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や表現の工夫など対象の見方や感じ方を広げられるように指導していく。

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校 教科名:保健体育

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	思考・判断の能力を向上させるための手だて	実技の能力を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p>【授業規律】 チャイムが鳴る前に着替えを完了し、準備運動が始められるように指導していく。</p> <p>【個別指導】 見学者は授業内容を記録させ今後に生かせるようにする。またできる部分の参加、課題を与えるなど指導する。</p> <p>【動機付け】 ・実際に見本を見せるなど本時の課題へ対する意欲を持たせる。</p>	<p>・毎回行う体力づくりの運動などのメニューを変えながら、楽しんで体力づくりができるようにしていく。</p> <p>・体育実技の本を利用し視覚にうったえ興味・関心を高める。</p>	<p>・練習方法を提示し、自分達に合う方法で、選択し考えていけるようにする。</p>	<p>・学習カードを利用し、運動のポイントとなる部分の把握に努めさせ、理解を深める。</p>	<p>・毎回の授業で気がついたこと、競技のルールや知識の話をしていく。</p>
展開	<p>【指導技術】 ・どんな種目にも意欲的に参加できるように、場の工夫やスモールステップでの課題克服に努め、常に動き運動量を確保できるようにする。</p> <p>【個別指導】 ・補助を工夫したり、ペア学習、グループ学習の形態をとり、仲間との関わり合いを多く持たせる。</p>	<p>・一人ひとりの動きを見てアドバイスし、またペアやチームでコミュニケーションをとる時間を与える。</p>	<p>・その種目の運動の場面、場面での発問を工夫し話し合わせ、考えさせる。</p>	<p>・運動量が確保でき、満足いく練習ができるように、工夫した場所づくり、用具の確保を行う。</p>	<p>・その種目の専門用語など、話をしたり、体育実技の本等で確認させる。</p>
まとめ	<p>【発問】 ・今日の振り返りと、課題を明確にさせる発問をこころがけ学習カードにまとめさせる。</p>	<p>・学習カードにできるだけコメントを書き、次回の授業の課題を把握し意欲を高める。</p>	<p>・学習カードに思考判断の項目をつくり、記入させる。</p>	<p>・けががないか確認し、整理体操、クールダウンを行う。</p>	<p>・授業を振り返りまとめの話をする。</p>

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校 教科名:技術分野

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	創意工夫の能力を向上させるための手だて	技能を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p>【授業規律】チャイム着席、チャイム授業を心がける。授業道具の点検を行い忘れた生徒に注意をし代わりの物を用意させる。PCや工具の準備をしっかりとさせ、不要なものは端に寄せるなど常に演習しやすい環境をつくる。</p> <p>【発問】前回までにやった注意事項などは繰り返し確認する。</p> <p>【板書】本時の課題がはっきりわかるよう新出の注意事項や手順について説明し、正しくプリントやノートへの記入ができるようにする。</p>	<p>・視覚的な教材を提示し関心を高めるようにする。</p> <p>・注意事項の確認は必ず行う。</p>	<p>・PC使用時には校内LANを使用したメールに返信することで、コミュニケーションを円滑に行えるように考えさせる。</p>	<p>・PC使用時には校内LANを使用したメールにより本時の学習内容をしっかりと確認させる。</p>	<p>・プリントやノートの記入をさせながら机間指導を行い、生徒を励ますようにする。</p>
展開	<p>【授業規律】パソコンを使用するときは正しい姿勢で、工具を使うときは常に緊張感を持って作業するようにする。</p> <p>【ノート指導】ノートには、実習の手順や工具の正しい使い方、注意事項をしっかりと書かせ、特に危険の伴う工具についてはプリントを貼らせてしっかりとまとめる。</p> <p>【教材提示】パソコン室ではプロジェクタ及びスクリーンを使った視覚的な教材の提示を工夫する。工具の使い方に関しては実際に作業するところを実演をして、イメージをしっかりとつくらせる。</p>	<p>・パソコンを操作する時間、工具を使用する時間を多く取り入れ、体験する時間を多くする。</p>	<p>・机間指導をしながらよりよくなるヒントをアドバイスしていく。</p>	<p>・製作では工具の練習の時間を取り入れ自信を持って製作に取り組めるようにする。</p> <p>・プロジェクタ、スクリーンを使ったプレゼンテーションを行い、お互いの発表を評価する。</p>	<p>・机間指導を行いながら、プリントやノートの内容を点検し、助言をする。</p>
まとめ	<p>【授業規律】片付けの時間をしっかりと確保し、材料や工具数の確認や整理整頓を徹底させる。</p> <p>【授業構成】本時の課題を確認し、次時に向けての心構えを指示する。</p>	<p>・今日の授業を振り返ることから、「出来るようになったこと、出来なかったこと」を実感させ、片付けをしっかりとすることにより次時の授業への意欲を持たせる。</p>	<p>・よりよくなるヒントを確認してから片付けに入るようにしていく。</p>	<p>・机間指導をしながら工具の正しいしまい方や材料の保管などを徹底していく。</p> <p>・メールによる課題提出を行い、メールを打つことによって本時の内容の確認を行う。</p>	<p>・今日の授業を振り返り、ノートやプリントの記入をしっかりとさせる。</p>

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校 教科名： 家庭分野

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	表現の能力を向上させるための手だて	理解の能力を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p>【授業規律】チャイム着席、チャイム授業を心がける。授業道具の点検を行い、忘れた生徒にはこの時間どうすべきか、次回忘れぬようどうすべきか確認する。</p> <p>【動機付け】本時の授業内容、特に生徒の生活の場面が答えとなるような発問で、関心を持たせる。</p> <p>【動機付け 実習の場合】工程全体を把握させ、現在の進度、今日の課題を明示し、時間内に目標をやり遂げるよう動機付ける。</p>	<p>・どのような自分の生活、体験と重なるかを、他人の意見を参考に、思考させる。</p> <p>・毎時の目標を達成した出来上がりの状態をイメージ出来るように、見本を見せ説明する。(実習)</p>		<p>自分や家の人の生活活動と関連付けるようにする。</p>	<p>一時間ごとにテーマを区切ることで、授業時間内の知識として覚えるべき内容を把握しやすいようにする。</p>
展開	<p>【発問】生徒の実生活から発言の出やすい内容を発問とし、授業に関連付けていく。失敗談もその改善方法等、常に前向きに生活する態度を皆で考える。</p> <p>【実習 技術の指導】教師も同じ作品をその場で提示して、作り方の説明を行う。説明後、書面で配布している作り方を見て、自ら理解し作業に取り組むよう、質問に対応しながら促す。</p> <p>作業には危険を伴うことが多いので、注意して作業にあたるよう指示する。</p>	<p>生徒の生活との接点の少ない内容の場合、具体例を例示後に意見を出し合い、クラスの中で自分達のものとして関心を深め合う</p>	<p>いくつかの表現方法を例示し、実習の作品に適する物を選べるよう工夫の余地を与え、自分らしさを表現できるようにする。(実習)</p>	<p>実習の説明後、書面で配布している作り方を見て、自ら理解し作業に取り組むよう、質問には最低限の受け答えをし、やり遂げるよう促す。(実習)</p>	<p>学習プリントやワークに記入することで、学習の要点や付帯事項の定着を図る。</p>
まとめ	<p>授業内容を振り返り、次回の準備等ははっきり伝える。</p> <p>授業時間内に片付けに取りかかるよう5分前には促し、整理整頓を心がけるよう指導する。</p>	<p>各自家庭で振り返りが出来るように、まとめる。</p> <p>課題には、身近な(家庭内)題材で自分の発見、発想を取り入れられる物とし、関心を持たせる。</p>	<p>課題(作品)に関するレポートを作成し、発表することで、表現を工夫させる。</p>		<p>学習プリントやワークに記入することで、学習の要点や付帯事項の定着を図る。</p> <p>学習プリントやワークの記入状況を点検することで、理解状況を把握し、次の授業での役立てる。</p>

平成23年度 授業改善推進プラン(一単位時間の配慮点)

杉並区立和泉中学校 教科名: 英語

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	表現の能力を向上させるための手だて	理解の能力を向上させるための手だて	知識・理解を向上させるための手だて
導入	<p>【授業規律】チャイム着席、チャイム授業を心がける。授業道具の点検を行い忘れた生徒に注意をし代わりの物を用意させる。英語による挨拶と簡単な英語の会話を行い雰囲気作りを行う。</p> <p>【動機付け】身近な話題から新しい表現・文法に関心を持たせ、本時の授業につなげていく。</p> <p>【教材提示】写真・ピクチャーカード・パワーポイントなど、視覚的な教材の提示を工夫する。</p> <p>【板書】本時の課題がはっきりわかるよう黒板の隅にメニューを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な内容を選び、生徒の関心を引くような教材を提示し、コミュニケーションへの関心を高めるようにする。 ・英語でどのような内容を言っているのか、教師の説明や発問を聞き、興味・関心を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を工夫し、自身自身のことを英語でどのように表現するかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な内容の英語の発問や表現を集中して聞き取らせる。 ・リスニング練習を週1回取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の単語、表現、文法を使って、どう答えるかを考えさせる。 ・小テストや単語テストを実施し、単語や文法の理解・定着を図る。
展開	<p>【授業規律】全体での練習では、何度も大きな声で繰り返し練習させる。必ず1時間内に全員が発言できるように指名したり挙手を促したりする。間違えることを恐れずに発表するように促す。</p> <p>【教材提示】DVD・写真・ピクチャーカード・パワーポイントなど、視覚的な教材の提示を工夫する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構文を使い、会話やゲームなどを通してコミュニケーションを図る。 ・生徒の意欲を評価し、間違えても恥ずかしくない雰囲気を作る。 ・何を学習しているのかを常に明確にし、活動に取り組みさせる。 ・ALTとの授業を通し、積極的に英語で話そうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構文を用いた会話やゲームなどを通して表現を学ばせ、繰り返し練習することで基本表現を定着させる。 ・何度も教科書本文を読み、暗唱させる。習った表現を使って英作文を書かせる。 ・身近なことについて自己表現し、それを発表したり、お互いに評価したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに日本語で説明するのではなく、教材を提示しながら英語で説明し、理解を深めるようにする。 ・ALTとの授業を通して、分からない英語でも類推する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行いながら、ワークシートやノートの内容を点検し、助言をする。
まとめ	<p>【ノート指導】ノートは1パートごとに見開きで使用させる。新出単語のプリントは左上、板書は左下、教科書本文と訳を右ページに、使用したワークシートやプリントを同じページに必ず貼らせ、家庭学習の際に基本構文と口頭練習した文が結びつくようにする。</p> <p>【授業構成】本時の課題を確認し、次時に向けての家庭学習を指示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を振り返ることから、「こういう内容が表現できるようになった」と言うことを実感させ、次時の授業への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や熟語、基本本文型を定着させるために、絶えず反復練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本本文型を意味を考えながら、声を出して発音するよう指導する。 ・教科書本文の意味を自分で考えさせ、ノートに書いてくることを宿題とする。毎時ノート点検を行い、生徒の理解度を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや単語テストに向けて、家庭で学習することを具体的に指示する。